



ゆふされば大根の葉にふる時雨
いたく寂しく降りにけるかも

齋藤茂吉

歌集『あらたま』より

提供/飯豊町

会長あいさつ

東京飯豊会会長 高橋正孝（中津川）



「ふるさと飯豊」を大切にしている会員の皆様、本年も各分野にご活躍の事、お慶び申し上げます。

昨年6月、当会45周年記念事業、「ふるさと訪問バスツアー」を企画、皆様の参加ご協力を得、天候にも恵まれ、感動感激の2日間の旅を無事終了出来ました。

齋藤町長様はじめ各分野の皆様から心温まる歓迎、接待を戴きました。この誌にて、町の皆様に、心より御礼申し上げます。また、9月15日には飯豊町のPRの場として設立した、いいで“Fun” Clubの設立総会が開かれ、皆様おなじみのダニエル・カール氏が会長に就任されました。

私共も当会の目的に沿うものとしてアピールに応え参加しました。

いいで“Fun” Clubの趣旨については本誌にも、また、東京飯豊会47回総会会場においても取り上げて、皆様のご理解を戴きたいと存じます。

本年も、会員皆様からの貴重な「年会費」に深く感謝いたしております。会報も6号となり益々充実の道を歩んでいると思います。

いわゆる『格差社会』が各分野で否応なく進行する中、故郷を同じくする会員同志、親睦と交流を通じ、生きて来た証を確認し、明日への希望を育む事が出来たら、故郷会もより価値あるものと思います。

お知り合いの方を是非ふるさと会へご紹介、お誘い下さいますようお願い申し上げます。併せて会員皆様のご健勝と発展を祈念申し上げます。

ふるさと だより

From飯豊町

町民プールオープン

健康づくりと体力増進を図る

この夏より、飯豊町立第二小学校体育館東側の県道沿いに、新しい町民プールがオープンしました。七月十二日から学校利用され、七月十七日から一般開放されました。学校利用と一般利用の併用方式をとることで、町民の健康づくりと体力増進を図り、安心安全な水泳環境を提供しています。



なかつがわ農家民宿オープン

昔ながらの温かいおもてなし

都市と農村の交流の活性化を図ろうと、中津川地区の農家八軒が農家民宿をオープンしました。去年十二月から県のアドバイスを受けながら開業しようと準備が開始され、今年の四月には法的規制をすべてクリアし、農家民宿の許認可を受けることができました。

早速、五月九日から一泊二日で仙台市内の中学生が農業宿泊体験として八軒の農家民宿に分散して宿泊しました。生徒たちは、農業をとおして命の大切さを感じ取るとともに、豊かな自然を満喫しました。

ファンクラブ設立

飯豊町をもうひとつのふるさとに

飯豊町の魅力を全国発信し、町外方にもうひとつのふるさとにしてもらおうと、「いいでファンクラブ」が立ち上げられました。九月十五日、設立総会が行われ、会長にタレントのダニエル・カールさんが就任しました。



会員になると、定期的に町の情報誌が届いたり、町内の提携施設での各種サービス、交流会参加などの特典が受けられます。また、特選旬の味コースに加入しますと、町内産のアスパラガスまたは新米がご自宅へ届きます。

【年会費】

- トクトク情報コース：千円
 - 特選旬の味コース：三千円
- お申込み・お問合せは、飯豊町観光協会（電話〇二三八―八六―二四一一）まで。

日通と森林育成事業協定調印

飯豊の森に新たな息吹

十月二十二日、町と日本通運(株)（東京都）は、森林の育成に協力して取り組む森林育成事業協定を結びました。町は、中津川財産区の森林七十ヘクタールを活動の場として提供。



同社は、そこで間伐や植樹などの森づくりを進め、社会貢献活動として二酸化炭素の排出削減を目指すものです。

これまで町は、日通(株)が行う社会実験事業（社員とその家族が、農業体験や森林の手入れボランティアなどを通して都市と農村の交流・対流を図るもの）の場を提供してきました。この度の協定は、それをさらに持続・発展させることを目的としています。

調印式のあと、日通(株)の村上広志環境・社会貢献部長をはじめ関係者は、これを記念してホテルフォレストイイでの敷地にモミジとブナを植樹しました。

【なかつがわ農家民宿の紹介】

- 雪見桜と大蔵山麓の宿 “庄太郎”
- 溪流釣りとお水辺の宿 “長右衛門”
- あったか昔話りの宿 “いろり”
- 本格田舎暮らしの宿 “長作”
- 水車と螢の宿 “いからし「本家」”
- 山菜ときこの宿 “善左衛門”
- 野菜づくしの宿 “いからし「新家」”
- そば畑と山菜の宿 “つくし”

◆詳細は下記までお問合せください◆

役場産業振興課商工観光室

（電話 0238-72-211 内線 250, 251, 252）

または飯豊町観光協会（0238-86-2411）

ふるさとに支えられて



伊藤富子（手ノ子）

先日、友人から届けられた「広報 いいで」拝見しました。懐かしい内容の記事もさることながら、【前略 ふるさと様】のタイトルが醸す温もりに、望郷の思い切なく、一筆認めさせていただきます。

さて、私たち夫婦は埼玉県に居を構えて40余年立ちました。共に飯豊町の出身。互いに70歳の坂を越えた今、息子夫婦と男孫2人が二階に居り、私たちは階下で細々ながら、鉄工所を営んでおります。二階より“避難ひなん”（震度2）と降りてくる孫の目当てはお菓子とジュース・・・孫たちと居られる今が勿体無く思えるこの頃です。

ふるさと様、ちょっと聞いてくださいね。私は昭和36年春、結婚退職して、東京のアパートに

所帯を持ちました。しかし、大都会での生活は厳しくて、昭和39年暮に埼玉県に転居、転職いたしました。にもかかわらず、働き手の主人の怪我入院、病気入院と災難が相次ぎ、ミルク代にと、質屋にも通いました。長男を背に会社の雑事をこなし、2人の子の待つ家へと自転車をこいだ暮色の砂利道。そんな時思うのは故郷の母であり、懐かしい村の風景でした。子供を寝かしつけた後、ふるさとの友人、実家、小川で掬った小さなめだか等、あれこれ懐かしんでは涙したことも幾度か・・・ふるさとを偲んでは、くじけそうになる自分を鼓舞して来た私でした。これからは、元気で居られる現在に感謝しながら、私たちなりの充実した日々を過して参ります。

・ふるさとの 無人の駅に降り立てば
まつわるごとく ボタン雪降る



望 郷

池田さだ（小白川）

ふるさとを後にしてより、今年で五十五年余りの歳月が流れましたが、素晴らしい自然の中で育った幼少期の思い出は、ひとコマも忘れる事なく鮮明に思い出されます。

美しくも厳しい冬が過ぎると、野も山も柔らかい若葉や、色々な花に囲まれる桃源郷のような春、やがて、濃緑の夏が過ぎて、田んぼは黄金色の稲穂が風にゆれ、周囲の山々が紅葉に染まる秋が訪れます。

このような四季の変化に富んだ自然の中でゆったりとした時の流れと共に育った子供の頃は、それを意識する事なく、当然の事と受けとめて、思いっきり遊んだり家の手伝い等をしたりましたものでした。

ふるさとを離れた年月を重ねれば重ねるほど改めて自然の美しさ、そこに住む人達の暖かい人情に囲まれて成長した事を身に沁みて感じさせられます。現在も時々帰省して、昔と変わらぬ自然を眺め、素朴な人情やなつかしい方言に触れて、心を癒しております。

昨年より通信講座で俳句の勉強を始めました。入門して間もないのでまだまだ幼稚ですが、ふるさとへの思いを読みました。

- ・立春や名のみ白き里の山
- ・夕暮れて蛙鳴く声にぎやかし
- ・代掻きや水田に映る泣っ面
- ・蟬時雨木洩日深し護摩御堂
- ・新米に姉の文添え宅急便



ふるさと 添川

遠藤清（添川）



ふるさとの山に向いて言うことなしふるさとの山はありがたきかなふるさと 添川を離れて四十余年。

今も故郷の山々。毎日仰ぎ見た「秀峰飯豊」この年齢になっても、折にふれては思い出されます。

春。待ち焦がれた雪解け。木々の芽吹きがまぶしい中。田植えもしたっけ。

夏。友達と「ザッコトリ」に興じた「白川」小さな渡し舟もありました。

秋。周りの山々が紅く輝き、飯豊山は白衣をまとい始めます。素晴らしい季節でしたがとても忙しい季節でもありました。稲刈り、脱穀、学校行事で「いなごとり」もしたっけ。栗を拾ったり、庭のり

んごをだまって食べたり。許される範囲で少しいたずらもしました。「きのこ狩り」、「芋煮会」なども楽しかったなあ～。

冬。「マント」を着ての登校も、つらいものがありました。雪が下から舞いあがる「地吹雪」いやだったなあ～。毎朝の雪踏み。でもスキーは楽しかった。「ドブロク」を作って飲んだのもこの季節でした。最近折りにふれて「故郷添川」に帰ります少年時代の「添川」少しづつ失われていくのが非常に寂しい気がしてなりません。出来るなら、あの頃のあの風景の中で、あの頃の「悪がき」達と一緒にあの頃を少しでも過ごしたいと思うのは私だけの「わがまま」でしょうか。でもやっぱり「山形県西置賜郡飯豊町添川」はいいな——

中国沙漠への植林に挑戦!!

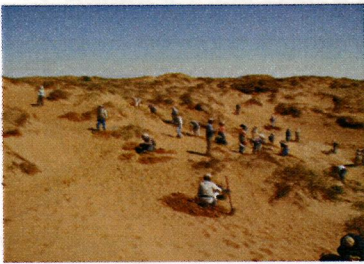
山口弘二(中津川)



出身企業の本田技研から植林ボランティアの募集案内が送られてきた。中国の大沙漠を緑地化しようと言う壮大な計画だった。

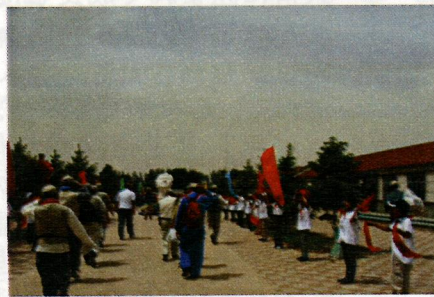
平成19年5月、日本を飛び立ち、北京経由で内モンゴルのカンチカという沙漠近くの小さな町に着いた。早速午後から20台のジープに分乗して沙漠に向かった。そこには既に先行部隊が苗木、スコップ、バケツを用意して待っていた。周りを見渡すと、ところどころにわずかな草が生えており、風によって作られる砂丘のうねりが何処までも続いている。

時々吹く強風で砂が飛び、まともに目を開けて居られない。苗木はマツ、ニレ、アカシアでビニールの小鉢に入ったポット苗だった。スコップで深さ70cm位の穴を掘り苗を入れ、水を掛ける。苗が順調に生



育するのは80%だという。

翌日は近くのハラウソ小学校の生徒達と一組ずつになって植えた。私と組んだ小5の少女は良く働いた。バケツの水を汲みに何度も走っていく。とても素直で一生懸命だ。朝この小学校で我々の歓



迎式典があった。校門から校庭まで両側に並んだ生徒たちが旗を振って出迎え。

校庭に作られたテーブルでモンゴル式にマオタイ酒の献杯を一人ずつ受けた。小学生がお酒を勧めるとは日本では想像もつかないことだった。

質素な飾り付けをした子供たちが、この日のために練習をしてきた民族舞踊を懸命に演じてくれた。ボランティア支



援に対する感謝の気持ちが伝わってきて、誇りと感動が体に湧き上がった。このハラウソ小学校は貧しい村の中にあり、広く点在した農家の子供たちが寄宿舎で生活している。子供たちの表情はメチャ明るく、元気が良かった。週末には父母が馬か馬車に乗せて連れて帰って行く。

もともと内モンゴルは大草原で馬、牛、羊、山羊が放牧されていた。それが100年前からの過放牧により、人と草原のバランスが崩れ、沙漠化が始まり、最近はこのホルチン沙漠が急速に広がっているのです。7年前に植えた木は15mの立派な成木に育っていた。中国政府がこの日本人による緑化の成果を見て、自ら緑化事業の運動を開始しているとの事でした。

我々の汗はやがて国を動かし、地球上の失われてゆく緑を元に戻す事が出来れば今回参加した意義は大きいと感じています。

芋煮会に参加して

国分正子(黒沢)



毎年恒例となっている同級生との秋の行事!芋煮会が羽村の堰で十名の参加者で行われました。十月半ばでしたが、秋空の下、少し暑いぐらいの陽気の中朝早くから準備に取り掛かり芋の皮むきから始まり、男の人手際よく包丁を使うのにはびっくりでした。大鍋に材料を入れ石を積み重ねたかまどで火を起し、いつもの慣れた手つきであつという間に火がつき次々と薪や河原の枯れ木などでぐずぐず煮上がっていきました。そして味付けをし、味見をしながら、お互いに味を確かめて出来上がりました。

ちょうどお昼時間に間に合うように出来上がり又それぞれ手作りのお新香や煮物を持ち寄り広げながら皆で乾杯しました。年一回顔を会わせるメンバー、何年ぶりかで会うメンバー等様々で話題も今年で還暦を迎えた事で定年後の話や健康の事

等、話も盛り上がり中学時代の写真を見ながらの思い出話や又各小学校の同級会の写真を見せ合ってお互いの変わり様に年を重ねた重みを感じてしまいました。

中学を卒業して四十五年位経ちましたがそれぞれに歴史が有り、戦後生まれの一番、生めよ増やせよの時代に育った年代です。

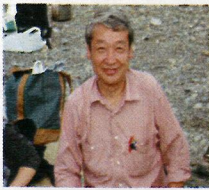
今団塊の世代と言われこれから益々増える高齢化社会に対してどう生きていけばいいのか、今まで生かされてきた来た事に感謝し一人では生きていけない事、皆に支えられている事を今の世代に伝えていければと思います。年を取るにつれて、人様の心の気遣いや優しさを感じますが私自身も高齢者にはそのような心情で接することが出来るようにしたいと思いました。秋の一日お互い色々気のおけない話等盛り上がり笑い声が弾み楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

飯豊のいも煮会

(故郷を想い・友と酒を

いもと思い出を肴に)

菊地清(萩生)



毎年秋になるとNHKニュースで馬見ヶ崎で大鍋で行っているいも煮会の様子が流れます。

会員の皆さんこの頃、河原でいも煮会をやっていますか。私たち飯豊中学校昭和38年卒業生の関東地区在住者の仲間が、昨年の10月13日(土)、多摩川(羽村の堰)で行いました。私達還暦の年での一端をご紹介します。仲間が集まると田舎の話を始めます。多摩川が映画のバックトゥザフューチャーのようにすぐ中学時代に戻ります。

今回の話の中に「自在鉤」は田舎でなんていったの。そのほか五徳、はえならし自在鉤の結論は出ませんでした。今回のいも煮会の新参加者は「麩」を持ってきた人がいて、さてそれをどうするか。議論昔は麩を水につけて水を絞って入れるという派と、そのまま入れていい派今回はこの頃の料理番組でそのまま入れるということで、料理

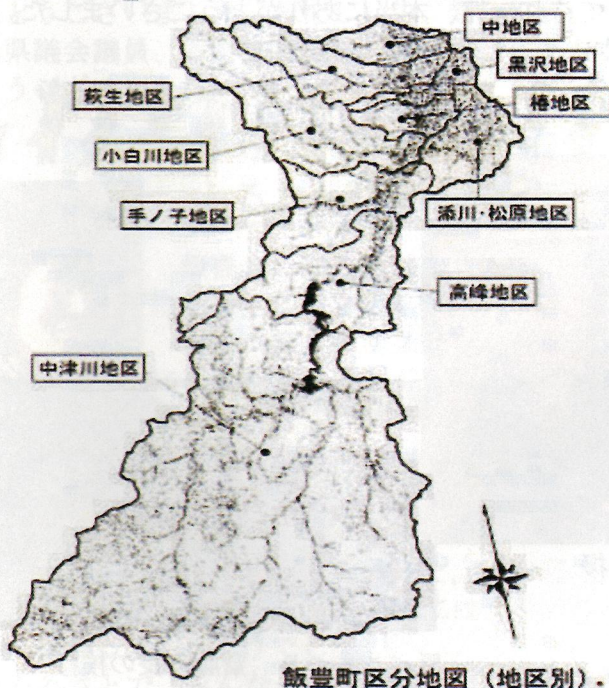
したら「うめごど、うめごど」

さて東京のいも煮会で結論がでなかった「自在鉤」次の週に、飯坂温泉での萩生小学校の同級会で、関東のいもに会の写真と、話題提供を行った。しかし、なかなか答えが見えない、昨今の携帯電話を活用して、さで近所の80代の人、90代のおばあちゃんの回答は「鉤」その話の中で、囲炉裏端の上にわらで作った弁慶に秋に取れた魚

はよ(鮠)、鰻を刺していたね。囲炉裏は煙たかったね。横座の話し、私たちは石盤、石墨を使った最後の世代、今はIT化の時代。この50年でも変わりましたが、人との付き合いは暖かく、大変うれしい日を過ごさせていただきました。

やっぱり同級生はいいな。関東近辺の色々な世代の方々2008年にやってみませんか。広報誌は仲間を集めふるさとを創る今回は飯豊のいも煮会をご紹介します。

昔懐かしい場所



* 中津川地区 織田英明 (中津川)

昔の古い小中学合同の学校。友達と早朝からキャッチボール、卓球、跳び箱、マットなどでの夕方迄の遊びの日課は学ぶより楽しかった思い出で一杯です。夏の清流白川は、泳ぎ、かじか取り、芋煮会の場所でした。良い思い出よ本当に有難う!

* 中地区 渡部志郎 (中)

春には桜の花見、遠足のメッカ 中村原
夏には水遊び、唯一馬場の橋の水浴び場(米昔馬を洗った川として馬場の橋と名付けられたとか)
秋には学校校庭での大運動会、あんな狭い所で桜と銀杏の木肌はスベスベ、冬にはスキー、長靴にはめたスキーで並松からママジタとちょっとした丘で、若泉公園上のモッコザでスキーも楽しんだ。四季山川の自然あふれた中での遊びにはなに不自由しなかった

“ああ～ えがったなあ～”

* 黒沢地区 井上和雄 (黒沢)

川や道路も随分変わり、今も変わらず残っているのは神社や、お寺。

黒沢の唯一のお寺、高伝寺(曹洞宗)は、幼いころ涅槃会に行き団子をもらったり、きもだめしをしたり、かくれんぼしたり楽しく遊んだ思い出の場所。置賜三十三観音の三番札所として、心と体を清める癒しの旅ブームで、東京等からも観光バスで訪れる人も多くなったようです。

会員の皆様も帰られた折には、お立ち寄りください。又境内には稲荷神社があり秋にはお祭りで獅子舞もです。昔は伊佐沢の芝居役者による演劇や出店も出て賑わい、楽しかった思い出がよみがえります。

旭地区の八幡神社や坪沼地区の熊野神社も時期を変えて、お祭りを催して居たので次はあっちだ、こっちだと梯子して楽しんだものです。

ふるさとの山・川よ お久しぶりです!! ふるさとの皆様ありがとう

.....ふるさと訪問バスツアー参加者の思い出特集.....



感動的な出会い

渡部志郎 (中)



東京飯豊会の記念行事、ふる里との交流を図るバスツアーを企画・実施され前回に続きいいで出身以外の方々の参加も頂き、無事楽しく終了することが出来ました。

改めて関係役員、お世話頂いた方々に心から感謝の気持ちを申し上げます。参加された皆さんのふるさとへの思いのあたたかさを感じられました。私もこの旅で感動的な出会いを経験する事が出来ました。1つは車中での自己紹介をする中で『今日は私の誕生日です』エッ!!偶然にも私の兄と同じでした。親近感を覚えた。ホテルに入り、懇親会の後、兄を呼んで同日の誕生同士、話

を大いに盛り上げ意気投合、終始、話が尽きなかったようでした。話を進めるうち全くの他人ではなかった事もわかり、これまたびっくり、世間は狭い!!お互い感動してしまいました。

2つ目は偶然にも「42年振りの再会」びっくりと超感動の一瞬でした。顔を合わせた瞬間、エッ!!よくよく拝見すると若い学生の頃の淡い面影を残している。目の前にして何も言えずただ涙腺が緩み、感情がこみあげ、涙ぐんでしまった事でした。こんなにも感動を与えてくれた今回のバスの旅、はるか遠いふる里への思いを一杯残してくれた旅、本当にありがとうございました。



歓迎宴での高橋会長お礼挨拶



大黒舞の皆さん



黒べこまつり 齋藤町長の挨拶



黒べこまつり 美味、々、感謝、々、満足しました!!!



どんでん平ユリ園 咲き頃、見頃、.....



ふるさとツアーに参加して

中村美壽 (添川)



6月16日(土)17日(日)は雨の予報にもかかわらず良い天気恵まれました。

久しぶりのふるさとの山々の景色、おいしい空気、日本一の田園風景、お風呂から眺める飯豊山はとても素晴らしいものでした。

又、フォレストいいでの宴会では大黒舞や民謡等とても楽しいひとときを過ごさせて戴きありがとうございました。お忙しい中、齋藤町長、小池県議会議員、各町議会議員の皆様本当にありがとうございました。

道の駅ではふるさとのなす漬、玉こん、山形さくらんぼ等なつかしくおいしく戴きました。沢山購入し近所に配ったり、お中元に使いとても喜ばれました。飯豊町の産物はとてもおいしいですね。めざみの里の佐原さんいろいろお世話になりました。又、ゆり園での楽しい昼食会・高級バーベキュー(飯豊牛)は最高でした。アツと言う間の楽しい2日間でした。

再び、ふるさとの皆様に会える日を楽しみにしています。

呉々も、お体に気をつけてお過ごしください。



ふるさと訪問バスツアーに参加して

樋渡三保子(南陽市)



飯豊会の知人に誘われ、姉と一緒に初めて参加させて頂きました。

黒ベコ祭りやサクランボ食べ放題にも惹かれましたが、観光旅行ではない『ふるさと訪問』と言うツアーを体験してみたかったからです。

まずは町の方々の温かい歓迎にとっても幸せな気分になりました。六月とは思えない暑さの中で豪快に食べた焼肉のおいしかったこと。『田辺さんが育てた黒ベコ』とのアナウンスにはその方の思いが伝わってくるようでした。

ふるさとで、みんな一緒に食べる。しゃべる。これは簡単かもしれませんが、とても素晴らしい

ことだと思えます。

私はいろんな方とお話できたのでぐっと親しみを感じるようになりました。一番楽しく思い出するのは、バスが実にさりげなくある家の前に臨時停車したときの情景です。笑顔のおばさんが待っていて土産物を渡したり、受け取ったり。次回は『戸別訪問バスツアー』がいいんじゃないかとの声もあり、バスの中は笑いで一杯になりました。

ホテルの幻想的な朝の景色、そして私達の為に用意して下さったのではと思われた朝採りのワラビ。人々の優しさと豊かな自然に心満たされた私のとおきおきの旅の一つになりました。

皆さん有難うございました。



なんにもかも思い出のバスツアー

織田英明 (中津川)



昨年の6月に東京飯豊会の「ふるさと訪問バスツアー」に参加し、産まれ育った懐かしい中津川で宿泊したホテルの朝。

もやが晴れ飯豊山がクッキリと見えた時、真に別世界に来た思いがしました。

帰路には「どんでん平ユリ園」「さくらんぼ狩」を楽しみ、お土産に頂いた「ユリ」の球根が2ヶ月程で白い花が見事に咲きました。

良い思い出と成りました。



いいで“Fun” Club 発足

東京飯豊会事務局長 志田義雄 (椿)



昨年、9月15日(土)～16(日)両日にわたり、白川ダム湖岸公園(中津川)にて、いいで“Fun” Clubの設立総会が開催されました。

当会からも高橋会長、手塚副会長、志田事務局長の3名が参加しました。

会長には、タレントのダニエル・カールさんが就任されました(役員は右下に記載)。

当日は、雲ひとつ無い晴天に恵まれ、この時期としては特別の暑さで大粒の汗と格闘でした。

総会後の芋煮会では、飯豊町ファン大勢の参加者が和やかに、懇親を図り、美味しい飯豊牛(米

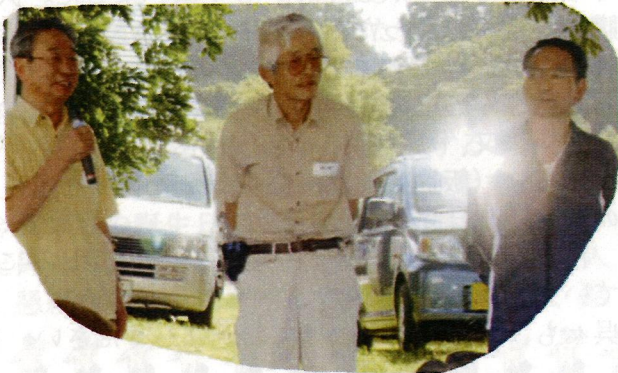
沢牛)を味わっていました。このファンクラブに加入すると、町内9施設でうれしい特典が受けられます。

実家へ帰られた時などは是非利用したいですね。

芋煮会の後は、手ノ子・八幡神社の境内を勇壮に舞う獅子舞を見物しました。小さい子供の中には、怖さで泣き出す子、飯豊を離れるのが寂しくて泣き出す子・・・きっと大きくなっても、飯豊のすばらしさを忘れずに、心の片隅にそっと仕舞って置いて欲しいものです。

いいで“Fun” Club 役員就任者

- 会長 .. ダニエル・カール氏
- 副会長 .. 高橋 正孝氏(東京飯豊会会長)
- 副会長 .. 佐藤 秀明氏(フォトコンテスト審査員)
- 顧問 .. 村田 幸子氏(音楽家)



東京飯豊会より参加者
左から高橋会長、手塚副会長、志田事務局長

ダニエル・カール会長の挨拶



わかりますか?
高橋会長と志田事務局長



飯豊の魅力広めよう

ファンクラブの設立総会

飯豊町の自然や文化な湖岸公園で開かれた。タレントのダニエル・カールさんが会長に就任、会員は芋煮などで親睦(しんぼく)を深めた。

湖岸公園で開かれた。タレントのダニエル・カールさんが会長に就任、会員は芋煮などで親睦(しんぼく)を深めた。

人が出席した。斎藤正三郎町長が「一人でも多くのファンを増やせ、飯豊町の観光大使として活躍してほしい」とあいさつ。

設立総会には、千葉、埼玉各県、東京都などから約八十人、これらに素晴(すはら)しさを全国に伝えたい」と話した。

設立総会後、ダニエル・カールさんは、入会すると町内の九施設で特別サービスを受けられるパスポートが発行されるなどの特典がある。問い合わせは町観光協会0238(86)2411。

山形新聞より転載

続・東京米物語ボランティア募集

東京飯豊会代表世話人 副会長 国分秀高(萩生)



昨年、「東京での米作り」をテーマにJA山形おきたま飯豊地区青年部添川支部が発表した「おれたちの東京米物語」が日本一に輝きました。

(5号に内容を掲載)食と農業の大事さを都内の小学校・生徒さんに体験出来る機会を提供してきたことへ賛同し、そのお手伝いを谷本顧問、深瀬幹事、と小生でやってきました。ふるさとと学校・子供たちと「東京飯豊会」とが継続して取り組んでいくことで「生産者と

消費者」、「都市と農村」との交流を通じて強い絆が生まれていくことと信じております。学校数の増加要請・点在化等を考えたとき、一人でもお手伝いを頂ける方が欲しい状況にあります。仕事は田植え立会い、その後、2週間に1回程度、体験校を巡回して水の管理や稲の育ちぐあいをチェックすること、稲刈りの立会いが主な内容です。

支援して頂ける方は下記へご連絡ください。

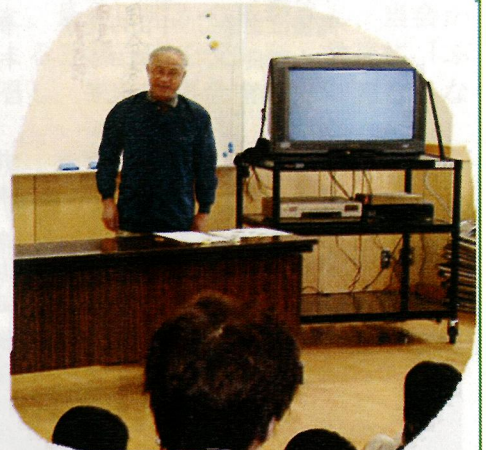
03-3411-1225 国分まで



谷本顧問『米作りの楽しさ』を説明



田植え:お米の“くさ”うえるの初めてなの。楽しいねー



おじさんはお米を作り、食べて来たから元気なんだ!



どうやって束ねるんだ?



ここまで育てば大丈夫だ!



実りの米、手にずっしり



収穫祭:自分で育てたものを食べるーおいしい!!ありがとう!!ーおじさん達「また来年も、お願い!楽しみにしてまーす!」

感動と勇気そして目標

匿名希望

2月17日第2回東京マラソンが開催された。約7時間(途中出入りはあったが)炬燵に入りTVを通じて観戦・応援をした。応募者が15万人余、参加者3万人を超える一大イベントであり、多くの裏方さんのご努力、沿道での切れ目のない応援、東京が持つ都市文化・風景、そして参加者の苦しくも楽しいラン&ウォーク等々に感動したものです。

特に、オリンピック予選選考会での一般参加の藤原選手の活躍そして、84歳の方が挑戦されている映像を見たときは、全国のTV

観戦者に感銘を与えると共に、小生も64歳を迎え時々年齢を意識することもありその勇気には脱帽でした。

早速、妻に来年参加して見たいねと言ったら、出来ないだろ事を予測して“どうぞ”と言われた。

皆さんも健康に自信のある方は挑戦をして見ませんか。会員の多くの方が東京飯豊会の法被を着ての参加を期待します。お蔭で来年に向け東京マラソン参加・7時間以内完走の大きな目標を持つこととなった。来年の本号でその結末を報告します。

平成19年度 年会費納入者御芳名 (敬称略)

2007/7/31現在

会員様307名の方々のご協力により、ここに第6号の会報を発行する事が出来ました。有難う御座いました。

[黒沢]	井上七郎 佐藤留喜 村田しづ	梅津勝美 島貫富栄 渡部隆	梅津茂夫 館石清	岡山悦子 中根友利子	菅野由佳 原あや子	小林秀 原田洋子	佐々木やゑ子 平山くに	佐藤忠志 峯村広義
[小白川]	安部春次 菊地健三 舟山睦男	五十嵐伸裕 佐原芳弘 舟山吉次	石島サダ 平君代 溝呂木清治	岩崎俊男 高橋八郎 吉田文伍	上田隆 為藤よしゑ 吉澤とみ子	大石亨 千葉マサヨ	太田節子 二瓶武司	小野幸一 舟山二男
[添川松原]	芦川裕子 木村優子 高橋はま子 船山勝良 米野清孝	伊藤憲子 金原ちゑ子 中山みえ子 前柳ヨシ 米野礼子	宇田京子 斉藤良一 新野善行 村田忠一	梅津勲 佐藤幸司 二瓶文夫 森博子	遠藤清 佐藤よね子 二瓶吉男 森田みさ子	小関こう 庄子良子 野村あき子 山口紘紀	勝見俊秀 鈴木孝男 平井文二 山水まさ	勝見祐市 鈴木リツ 福田ふみ子 横沢五郎
[高峰]	伊藤正光 林洋子	井上志げ 本間元	井上武雄 本間弘三	川口茂夫 本間昭二	佐藤剛 矢部みを子	鈴木清子 山本イ子	高橋正弘 横山文男	坪川民主
[橋]	青木典子 上原ハルエ 菅野栄三 高橋弘子 松山倉夫	安部貞夫 太田千代子 後藤キミ 手塚みよし 森本静江	五十峯一郎 岡文子 後藤道子 長沼忠良 横山正勝	伊藤一敬 岡本輝子 小林まち 新野忠良	伊藤清一 香川典子 斉藤聖子 新野豊明	伊藤薫男 加藤文雄 志田清三 船山健次	伊藤正義 加藤洋子 清水ハルエ 堀江	伊藤順康 川嶋トシ子 高橋叔子 本間總子
[手ノ子]	池田典子 鈴木貞次 舟山繁勝	今原幸子 鈴木三男 室田武	大野シヅエ 高石京一 柰代忠恒	大場マサ子 竹田輝夫 渡部昭雄	奥山俊昭 竹田元雄	奥山保弘 田中二男	小池喜美恵 舟山清	佐村孝作 舟山好一
[中]	栗飯原操 小黑八重子 島貫正十三 長岡俊昭 渡部義男	青木道子 菅野義徳 城戸かつこ 新留静子	青木しげ子 加藤留美子 鈴木梅子 錦織明美	朝倉重美 木村幸子 鈴木昭作 野原致子	朝倉建 熊谷定善 鈴木謙治 福島ヨ子	安達宮子 工藤コウ 高橋英子 村上徳栄	位下和子 左東久子 田所昌子 渡部聡征	臼井八重子 篠原五郎次 長岡信司 渡部清三
[中津川]	安部喜代次 小川京子 近藤和子 鈴木萬 山口哲男	伊藤三吉 奥田百合子 早乙女キヨ子 高橋大八 山口和吉	伊藤孝美 小倉よし 佐藤栄子 高橋義久 渡辺カツ子	伊藤弘志 川崎通男 佐藤せつ子 原慶子 渡部昭四郎	伊藤求 古藤光康 佐野隆男 引地タミ 渡辺常雄	井上功 後藤篤志 清水静子 丸山光雄	井上啓助 後藤昭輔 鈴木政次 峯岸浩夫	井上仁 小林好 鈴木芳助 山口想二
[菟生]	朝倉栄次 梅津文蔵 嘉藤六郎 小林スイ 鈴木俊子 手塚太 山田正子	浅間朝子 海老沢真砂子 金子ゆき 坂田美江子 高橋昭 富永信子 渡部新吾	石井シズ 小浦正一 菅利夫 坂本喜美子 高橋勝治 中山淑子 渡部とく	伊藤晶子 岡野芳子 木村清 桜井登美子 高橋茂夫 長谷川トク 渡部博士	伊東武義 小野寺瑠璃子 木村俊三 佐藤豊子 高橋みつ 長谷部たまの 樋口昭三	浮谷栄子 粕川鉄男 組谷信子 柴田かね子 高橋洋子 樋口昭三	宇津木栄三郎 嘉藤功 後藤昭雄 島貫幸雄 谷口秀子 樋口孝	宇津木吉美 嘉藤秀一 後藤節子 東海林房子 手塚久良 廣瀬廣子
[役員]	浅野慶吉 織田英昭 志田幸次 土田正一 樋口昭二 渡部志郎	池田さだ 川合かよ子 志田義雄 手塚敏浩 深瀬忠次	伊藤茂 幸田あや子 島田栄子 手塚久雄 舟山繁太郎	井上和雄 国分秀高 鈴木伊勢夫 中澤サ夕 宮城慶吾	今村ひろ子 小関恭雄 須藤勝志 長沼清 八鍬勝夫	男鹿善次 佐藤善治 高橋正孝 中村美寿 山口弘二	小笠原辰男 佐藤包子 田辺幸夫 新野孝司 山口美恵子	小川悦男 佐原利博 谷本亮司 二瓶孝徳 横山忠雄

第46回東京飯豊会総会・懇親会盛大に挙行政

3月11日(日)第46回東京飯豊会総会・懇親会が日暮里のホテルラングウッドで開催されました。当日は250名余の会員の参加を得、来賓として齋藤町長、五十嵐町議会議長、ほか議員・町行政関係者、友誼交流団体として川西会、致芳会、花回廊ようざんロードを作る会をお招きし、開催致しました。

第1部は志田事務局長の司会で高橋会長の挨拶、齋藤町長の来賓挨拶などをお受けしながら進められました。高橋会長はふるさと会の持つ意義と更なる絆を会員・飯豊町と深めていこうと述べられ、齋藤町長は飯豊町の現況と活気ある町作りにご努力されていること、そして東京飯豊会との交流を今後も深めていきたい旨のご挨拶がございました。

次に、会務・会計報告を行い、会長任期を含め永年会運営にご尽力された谷本前会長並びに飯豊町へ贈呈した絵画を製作・寄贈された手塚副会長に対し、感謝状を贈りました。

第2部は宮城幹事による司会のもと、五十嵐議

長の乾杯で始まり、久方ぶりの会員同士の語り、町・友誼交流団体の皆さんとの交流を深める中で恒例となったつきたての餅を頬張りながら、和やかに懇親を深めたところです。

そして、今回のアトラクションは中津川出身の井上さんご夫妻が主幸されておられる「井上光雲翔会」による三味線・尺八の音曲で心に沁みる民謡をお聞かせいただき、暫しふるさとの情景に溶け込む思いでした。

続いて、盛り沢山の賞品を用意してのお楽しみ抽籤会が行われました。番号が読み上げられる度にあっちこちから歓声が上がり熱気をおびた会場となりました。最後に町から手塚さん、当会から小関さんによる万歳三唱を交わし、最後に「ふるさと」を合唱し、来年の再会を約し御開きとなりました。

お帰りは、出店にご協力を頂いた観光物産館から、ふるさと満喫の即売品を買い求め、両手にし、三々五々帰途あるいは同級生との2次会へと繰り出しました。



高橋会長挨拶



齋藤町長挨拶



谷本前会長に感謝状贈呈



手塚副会長に感謝状贈呈



井上光雲翔会の皆様による熱唱・熱演奏



町長賞おめでとう!!!



恒例のお楽しみ抽籤会風景



生まれ故郷を想い“ふるさと”を唱和。再会を期す



ここで“買わねば”お土産話にもなんねー <物産品売場>

1年は待ち遠しくもあり、また早いもんだなーっし





4 アンケートで高い評価を受けた「道の駅いいでき」の子どもたちと職員さんたち

**豊富な品揃え、米沢牛を味わえる
駐車場もトイレも広く、堂々1位!**

野菜から加工食品まで幅広い商品が揃い、スナックコーナーやレストランメニューも豊富で、どれも新鮮においしいと評判。食を中心にした評価が高かった。特に米沢牛を使った料理が人気。オリジナルのどぶろくまんじゅうや、7・8月以外は常時テイクアウトもできる芋煮を目当てに訪れる人も滞在時間が長いのも特徴だ。

編集部注目Point

食品の味と安全性にこだわりが！今回の井も米沢牛共産会で最優秀賞を何度も受賞した産地牧場の黒毛和牛を使用。

道の駅いいでき
めざましの里観光物産館



ランキング	1位
総合満足度	78.4ポイント
トイレ	80.0
屋外休憩所	73.8
売場・加工場	65.6
売場・土産情報	69.0
食事メニュー	85.2
テイクアウト	89.4
お土産	91.8
おまけサービス	73.2
清潔感	77.6



味が長く染みこんだ柔らかい牛肉がたっぷりのった豚汁だ。



▲おけがらし 680円
麻の葉を加えたかっしもろみ。炊きたてごはん

「駅長から一言」
親しみやすさを大事にしています。
「入りやすく長居したくなる駅が目標です。建をイメージした建物とスタッフの人情っさが、入りやすい雰囲気を出して、気軽に立ち寄れるとお客さんにも評判です。名物の芋煮を食べながらゆっくりござとごえな」
専務取締役 安達純一さん



▲沿線道路の交通量に対する立ち寄り率が24.8%。これは平均の倍以上の数値

『じゃらん』より転載

東北版『じゃらん』が東北の道の駅126駅の人気投票した結果、「道の駅いいでき」が堂々の第一位となりました。是非お越しください!!!



▶1個120円の大きき、揚げたてのさくさく衣に包まれたお餅が、のどに優しい味に評判です。



◀米沢牛コロケ 150円

ふるさと情報コーナー

飯豊町&観光協会のホームページでは色々なイベントの紹介や出来事、又四季折々の今が見られる役場からのライブ映像、テレビ東京で飯豊町の「厳冬田舎暮らし」の様子が放送されます!と旬の情報提供があり、色々楽しめます。会員の皆様、家に居ながらふる里の状況が時々刻々と伝わってきます。ちょっとのぞいてみませんか?皆様どうぞお楽しみ下さい!!!

飯豊町役場 <http://www.town.iide.yamagata.jp>



飯豊町観光協会 <http://www.iikanjini.com>

広報部からのお願い

次号に向け、会員の皆様からの原稿、ふるさとの思い出、生きてきたこと、同級会案内、尋ね人、日常の何気ない気付き、短歌・俳句など何でも(600字程度)を下記までお寄せ下さい。お待ちしております。

広報部長 新野 孝司
TEL&FAX: 045-481-4554
〒221-0862 横浜市神奈川区三枚町138-23

事務局長 志田 義雄
TEL: 049-244-3940
〒350-1136 川越市下新河岸69-66

編集後記

- あるメディアの調査で東京に住む100人の地方出身者に高校野球の甲子園出場校の応援を出身県と東京とでどちらにするかを問うたところ、98人が前者と回答をしたそうです。合点が行った。それほど「ふるさと」は良きかなです。この原点を忘れずに、いつまでもそして広く日本に、世界に、地球上のあらゆるものに愛と感謝の気持ちを持ちつづけ、今年こそは「偽り」の年から「信頼」の絆が広がる年にしたいものです。
- 総会風景、ふるさと訪問ツアー、ふるさとだより、ふるさとへの感謝を込めた思い出と世界に広がるボランティア活動などで編集しましたが如何でしたでしょうか? ご家族の中での会話の一助に資して下さい。
- 今回 宮城、志田、井上、斉藤、新野が編集に携わりました